

# 日本語における懸念表明に対する慰め行動と性差

張樂 金沢大学大学院生

## 背景・目的

◆ 張(2021): 慰め行動を**相互行為**として捉え

慰め行動

前慰め段階

慰め段階

後慰め段階

各段階において男女それぞれに多用される**意味単位**を抽出することで、**外的の慰め行動のフロー**(会話の流れ)を考察した:

開始: 状況把握

→ 慰め: 状況評価・分析と方法提示

→ 終了: 克服の期待(男女差が大きい)

◆ 内的の慰め行動のフローも考察  
(各段階内における意味単位の出現順序)

慰められる側が繰り返された【懸念表明】に対する慰める側の慰め行動の変化を考察することで

**内的の慰め行動のフローとその性差を明らかにする**

## 調査概要

ルール  
プレイ法 場面設定:  
「就職がうまくいかない友人を慰める」

調査協力者 K大学の大学生男女それぞれ20名ずつ  
(総計40名の同性友人ペア20組)

文字化 会話データを文字化(宇佐美, 2019)

## 分析方法

◆ 張(2020): 慰め行動の3段階

「前慰め段階」 相手のネガティブな感情を持っていることを察した後、話しかける段階

「慰め段階」 相手のネガティブな感情を持っていることを確認した上で、慰める段階

「後慰め段階」 相手がさしあたり納得したところを確認した上で、慰め行動を終了する段階

◆ 意味単位 (semantic formula、意味公式)

Beebe et al.(1990)の「断り」に対する意味単位の方法論

新たに慰め行動に応用・作成する

- ・慰め行動の3段階をより明確に
- ・各段階における発話行為の機能を明確に

## 結果と考察

◆ 「前慰め段階」

男女ともに、【情報要求】／【挨拶】→ 1回目の【懸念表明】  
男: 70%; 女: 80% 男: 20%; 女: 20%

◆ 「慰め段階」

➢ 男性: 5回(30%)～9回(40%)の【懸念表明】(1回目の【懸念表明】を加え)

表1 「慰め段階」における男性が一番多く使用する意味単位

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目
合計	【情報確認】 (50%)	【情報要求】 (31%)	【共感】 【提案】 (19%)	【提案】 (29%)	【提案】 【現状指摘】 (26%)	【共感】 (22%)	【現状指摘】 【提案】 (25%)	【提案】 (20%)	【現状指摘】 (31%)

状況把握(状況) → 状況評価(感情)と方法提示(状況) → 状況分析と方法提示(状況)

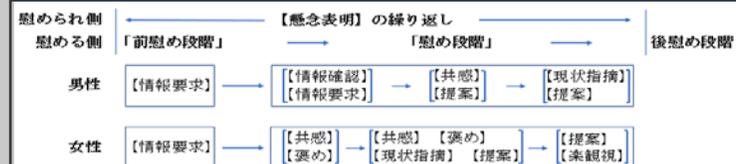
➢ 女性: 4回(40%)～6回(40%)の【懸念表明】(1回目の【懸念表明】を加え)

表2 「慰め段階」における女性が一番多く使用する意味単位

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
合計	【共感】 (40%)	【共感】 (35%)	【褒め】 (23%)	【共感】 (24%)	【現状指摘】 【提案】 (25%)	【褒め】 【提案】 【楽観視】 (21%)

状況評価(感情) → 状況分析(感情) → 状況評価(感情)と状況分析(状況) → 状況分析と方法提示(状況)

## 結論



- 男女ともに感情中心から状況中心の発話へ変えるようにする
  - 男性: まず**全体の状況を把握**することを重要視
  - 女性: まず**理解を示すことと自信をつける**ことを大事
- 男女差がある

## 今後の課題

「後慰め段階」に繰り返された【納得】に着目

慰め行動の全体像を明らかにしたい